

当院を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	消化器癌肝転移診断における低エネルギー仮想単色 X 線画像の有用性に関する多機関共同後ろ向き観察研究
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 道勇 学
担当科等	放射線医学講座
研究責任者	(職名) 助教 (氏名) 成田晶子
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	浜松医科大学 市川新太郎
研究の意義・目的	<p>肝転移は消化器癌(大腸癌、胃癌、膵癌)の転移の中で最も頻度の高い病変です。大腸癌や胃癌では肝転移がある場合でも、原発巣と肝転移を完全に切除することができるかと判断された際には手術対象となりうるため、肝転移の個数や部位を正確に診断する必要があります。それに対し、膵癌では一か所でも肝転移があれば手術適応はないと判断されます。消化器癌術前あるいは術後の転移検索には CT が一般的に用いられますが、肝転移の診断能は十分とは言えません。一方、肝特異性造影剤である EOB を用いた MRI (EOB-MRI) は CT より肝転移の検出能が高いと報告されています。しかしながら検査時間が 30~40 分と長いことが欠点であり、すべての消化器癌患者さんにスクリーニングとして行うことはできません。</p> <p>近年普及しつつある dual energy CT では従来の CT よりも病変のコントラストが向上することが知られています。これにより肝転移の検出能が向上することが期待されています。しかしながら消化器癌の肝転移診断についての研究は現時点で十分になされているとは言えません。本研究では従来の撮影条件と同等の条件である 70keV 画像と低エネルギー仮想単色 X 線画像(40keV 画像)の消化器癌肝転移検出能を比較することを目的としています。</p>
対象となる患者さん	2015 年~2022 年までの期間に当院において消化器癌(大腸癌、胃癌、膵癌)肝転移の検索目的に EOB 造影 MRI 検査および dual energy CT による造影 CT 検査を受けられた 20 歳以上の方。
研究の方法	診療録と造影 MRI から消化器癌(大腸癌、胃癌、膵癌)の肝転移の有無、個数を確認した上で、その病変を dual energy CT でも評価します。具体的

	<p>には dual energy CT の中の従来の 70keV 画像と低エネルギー仮想単色 X 線画像 (40keV 画像) の 2 つの画像間での比較検討を行います。</p> <p>研究計画書及び研究の方法に関する資料を希望される方は下記の問い合わせ先までご連絡ください。</p>
研究期間	研究実施承認日 ~ 2024 年 3 月 31 日
研究に用いる試料・情報	情報: 診療情報(年齢、性別、既往歴、合併症、病歴、治療歴、身長、体重、血液検査結果等)、CT、MRI、肝転移の病理学的診断結果等
外部への試料・情報の提供	提供先: 浜松医科大学 放射線診断学講座 提供方法: 匿名化した上で電子媒体にて郵送します
試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	本研究への試料・情報の利用又は提供を希望しない方は, 2023 年 3 月 31 日までに下記問い合わせ先まで申し出てください。
問い合わせ先	愛知医科大学 放射線医学講座 担当者:(職名)助教 (氏名)成田晶子 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1 電話 0561-62-3311 (内線 22833)